

参考文献

- 小川直人 (2020) 『多文化共生と異文化コミュニケーション』 八朔社
- 野々口ちとせ (2010) 「共生を目指す対話をどう築くか ―他者と問題を共有し『自分たちの問題』として捉える過程―」 『日本語教育』 144(0)、pp.169-180
- 早川昌志・早川卓志 (2023) 「4つの共生論共生を『ともいき』『シンバイオーシス』『エコシステム』『インクルージョン』の4つの視点から整理する」 『未来共創』 10、pp.75-131
- 平田オリザ (1998) 『演劇入門』 講談社
- 星野欣生 (1992) 「36 介入ということ - 構造化された実習において -」 津村俊充・山口真人 (編) 『人間関係トレーニング』 ナカニシヤ出版 pp.144-147
- 細川英雄 (2016) 「第1章市民性形成をめざす言語教育とは何か」 細川英雄・尾辻恵美・マルチェッラ, マリオッティ (編) 『市民性形成とことばの教育―母語・第二言語・外国語を超えて』 くろしお出版、pp.2-19

- 愛知県 (2020) 「はじめての日本語教室―指導者のための教材活用マニュアル―」
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kyozai-hajimete-nihongo.html> (令和8年1月9日現在)
- 愛知県 (2022) 「愛知県日本語教育実態調査報告書 (日本語教育実施機関実態調査 / 外国人県民ニーズ調査)」
- 愛知県 (2022) 「愛知県地域日本語教育の推進に関する基本的な方針」
- 豊田市 (2012) 「とよた日本語学習支援システム ガイドライン」
- 名古屋市 (2020) 「地域日本語教育に関する調査結果報告書」
- 名古屋大学 (2008) 「外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査委託 調査報告書 [平成 19 年度豊田市委託]」
- 日本語教育小委員会 (2022) 「地域における日本語教育の在り方について (報告) 別冊「日本語教育の参照枠」における生活 Can do 一覧」
https://www.nihongo-ews.mext.go.jp/information/framework_of_reference (令和8年1月9日現在)
- 日本語教育学会編 (1990) 『日本語教育ハンドブック』
- 総務省統計局 (2025) 『在留外国人統計 (旧登録外国人統計) 2025 年 6 月』
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20250&month=12040606&tclass1=000001060399> (令和8年1月9日現在)
- 文化審議会国語分科会 (2010) 「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」
- 文化審議会国語分科会 (2021) 「日本語教育の参照枠報告」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93736901_01.pdf
- 文化審議会国語分科会 (2021) 「日本語教育の参照枠」
- 文化審議会国語分科会 (2022) 「地域における日本語教育の在り方について (報告)」
- 文化庁. “「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容・方法の充実 (カリキュラム案, ガイドブック, 教材例集, 日本語能力評価, 指導力評価, ハンドブック)”. 文化庁ホームページ. 更新日不明.
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/ (2026 年 1 月 16 日現在)
- 文部科学省. “「日本語教育の参照枠」”. 日本語教育コンテンツ共有システム. 更新日不明.
https://www.nihongo-ews.mext.go.jp/information/framework_of_reference (参照 2026 年 1 月 16 日現在)

おわりに

この手引書では、みなさんが指導者としての第一歩を踏み出すために必要な内容をまとめました。理解できたこともあれば、まだモヤモヤしていることもあるかもしれません。ぜひ、指導者として活動を始めたあとも、ときどきこの手引書を開いてみてください。実践を重ねる中で、初めて腑に落ちることがきっとたくさん出てくるはずです。

指導者として活動していると、様々な困難にぶつかることもあるでしょう。そんなときは、一人で抱え込まず、同じ教室で活動する指導者や、他の初期日本語教室の指導者、本県の総括コーディネーターや地域日本語教育コーディネーターなどに相談してみてください。地域には、みなさんを支える仲間がたくさんいます。

この手引書が、みなさんの活動の拠り所となり、これからの学びと実践を支える一冊となることを願っています。

指導者向け対話型初期日本語教室のための手引き
執筆者一同



令和7年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

本手引きは、令和7年6月から令和8年2月にかけて、「地域における初期日本語教育指導者向け教材作成業務検討会議」における検討を踏まえ、作成したものです。

「地域における初期日本語教育指導者向け教材作成業務」 執筆者名簿

令和8年3月末時

清水 きよ恵	あいち地域日本語教育コーディネーター
千葉 月香	愛知県立大学 講師
松村 月音	愛知県 社会活動推進課 多文化共生推進室 主事 総括コーディネーター
村田 竜樹	愛知県 社会活動推進課 多文化共生推進室 主事 総括コーディネーター
横山 りえこ	あいち地域日本語教育コーディネーター
米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表

(氏名50音順、敬称略)

〈事務局〉

長尾 晴香	株式会社 link design lab
八代 明恵	株式会社 link design lab

〈デザイン〉

豊田 赳史

指導者向け対話型初期日本語教室のための手引き

2026年3月発行

発行 愛知県 県民文化局県民生活部
社会活動推進課 多文化共生推進室

企画・編集 株式会社 link design lab
